



ピンクと黄色のツートンカラーの車両



スイッチバック式の線路のある出雲坂根駅

きすき
木次線ストロール⑳

総集編

「出雲神話の伝説をたどり

『砂の器』のロケ地を巡る」

木次線ストロールの連載がスタートしたのは、2023年10月号から。取材日は9月18日月曜日、敬老の日である。備後落合駅に車を停めた。駅舎の待合室で、名物ボランティアガイドの永橋則夫さんの名調子、落合駅の歴史を聞いてから、9時20分発の木次行き始発電車に乗った。

「芸備線のように、終点まで行く。広島県最北の駅、といっても15分ほどで油木（ゆき）駅に着。広島県最北の駅、といつても

つもりはないが、県境を超えていくつかの駅を訪れてみたいと思っている。」

駅舎はなく、ホームの屋根の下に、プレハブの小さな待合室があるだけ。駅の周辺を散策したあとで、油木川沿いの国道を南下して備後落合駅を目指したのだが、列車で15分の距離なのでかなり長い。「木次線は芸備線よりも手ごわい」という印象を強くした。

途中、油木川の川辺に降りて、鉄滓（たたら製鉄で玉鋼を取った後の副産物）をいくつか見つけることができた。木次線の沿線では、その後もいろんな場所で鉄滓を採集、たたら製鉄が盛んだったことを証明＆実感した。

ある。JR西日本では最も標高が高い（727m）駅である。広島県民にとつては、身近なスキーとして知られていた。現在は、残念ながらリフトは運行中止、私設のスロープのゲレンデが細々と営業しているだけだった。

三井野原のことを調べていて、この地方がかつては広島県に所属していたことを知った。昭和28年に島根県に編入されたのである。

三井野原駅から出雲坂根駅の間には、全国でも珍しいスイッチバック運転の箇所がある。急勾配に対応するため、列車は進行方向を2回切り替えながら、逆Z型でジグザグに進行、その線路が三段になっていることから、三段式スイッチバックと呼ばれている。

取材したのが2023年11月20日で、観光列車の「奥出雲おろち号」が11月23日で運行終了という時期だった。人気のトロッコ列車の最後の勇姿を撮影しようとして、多くの鉄道ファンが訪れていた。木次線がいちばん賑わっていた時かもしれない。

次の八川駅は、映画『砂の器』のロケで使われた駅舎だ。「亀嵩駅」として撮影されたという。『砂の器』と木次線（村田英治著）で、詳しく紹介されている。屋根が新しく吹き替えられたくらいで、駅舎は撮影当時のままだ。

八川小学校の校庭の奥に「絲原



神社のような外観の出雲横田駅



下久野の鉄橋を渡る「あめつち」

武太郎」の像が立っている。絲原家はたたら製鉄で財を築いた名家で、明治10年代には全国の鉄の生産量の半分を、島根県が占めていたという。しかし、海外から安価な洋鉄が輸入されるようになると衰退、当主の絲原武太郎が活路を求めたのが、製鉄から製炭への転換だった。そのため、輸送網を整備するために、武太郎は木次線敷設に尽力したのである。

出雲横田駅は、まるで神社のような外観で、昭和9年の開業当時の姿を保っている。正面玄関の上には、立派なしめ縄まで飾られている。駅舎の隣には「稲田姫の像」がある。八岐大蛇（やまたのおろち）の生贄になるところを素戔嗚尊（すさのお）の女神である。さのおのみこと）に助けられて妻となった女神である。

龜嵩（かめだけ）駅、「砂の器」の舞台になった場所である。少し離れているが、ロケ地になった湯田神社に参拝、その近くにある「龜嵩温泉・玉峰山荘」で露天風呂を堪能した。

出雲三成駅、近代的な駅舎に「奥出雲観光協会」が入っていて、電動自転車をレンタル、「鬼の舌震（したぶるえ）」や絲原記念館まで足を延ばした。鬼の舌震は斐伊川の支流大馬木川の約2キロにわたるV字渓谷で、不可思議な形の巨岩群が觀賞できる。国の名勝、天然記念物にも指定されている。絲原家は大江賢次の小説「絶唱」のモデルとしても有名で、3回も映画化されている。

出雲大東駅、近くを流れる赤川の川原に降りてみたが、川底にはカワニナが密生。黒い小さな巻貝で、ホタルの幼虫の餌になる。「赤川ほたる保存会」が増やしたもので、赤川のホタルが復活した。

幡屋（はたや）駅、かつては駅舎があったようだが、現在は解体されて、ホームに簡易な待合室があるだけだ。赤川の川原で、大きな鉄滓を採集することができた。この頃から腰痛が悪化、車を停めた駅まで歩く体力はなく、列車を利用して帰るようになった。

下久野駅では、駅の周辺を散策していて「あめつち」と遭遇した。「奥出雲おろち号」の後継の観光列車。木次線走るのは月に4日程で幸運だった。

日登（ひのぼり）駅、駅舎の隣に「日登駅」の木製の歌碑がある。NHKのど自慢でグランドチャンピオンになった全吉の歌手、清水博正が歌っている。作曲が弦哲也で作詞がさとうしろう、「風雪たえるふるさとの小さな駅はかあさんの駅……」、心に滲みる歌である。

木次駅を訪れたのは4月7日。「日本さくら名所百選」の「斐伊川堤防の桜並木」は満開だった。桜のトンネルが続いている。木次や三刀屋を含めて雲南市内が桜色に染まる季節である。

南大東駅、昭和38年開業の木次線では一番新しい駅である。ホームに待合室があるだけの停留駅。近くの踏切の「鉄穴踏切」という看板が印象に残った。

出雲大東駅、近くを流れる赤川の川原に降りてみたが、川底にはカワニナが密生。黒い小さな巻貝で、ホタルの幼虫の餌になる。「赤川ほたる保存会」が増やしたもので、赤川のホタルが復活した。

幡屋（はたや）駅、かつては駅舎があったようだが、現在は解体されて、ホームに簡易な待合室があるだけだ。赤川の川原で、大きな鉄滓を採集することができた。この頃から腰痛が悪化、車を停めた駅まで歩く体力はなく、列車を利用して帰るようになった。

加茂中（かもなか）駅、島式ホームが珍しい。島のようにホームが独立していて、両側に線路を敷設、列車が行き交うことができる。

南宍道駅、近くに宍道氏の「金山要害山城」があり、熊を警戒しながら頂上まで登った。標高148m、遠くは宍道湖まで見渡すことができる。

終点の宍道駅を訪問したのは2026年4月6日。スタートしてから2年半の歳月が流れている。腰痛悪化で散策する体力がなく、歩かなくてもいい企画を間に入れたので時間がかかった。「昭和新聞」の大草原が印象に残った。宍道湖干拓計画が頓挫した跡地だが、旅行者にとっては驚きの光景だった。潮風に吹かれるまま、しばらく見惚れていた。

寄稿エッセイ

「棟梁横山林太郎」

高柴順紀（菊栽培農家）

東城の町うちの人たちは明治以降、建てられた商家の幾つかは横山林太郎によるものだとはよく知っていた。

中でも保澤家の三楽荘は国登録有形文化財としてよく知られており、平成十九年詳しく建物を調査された大の三浦正幸教授が「奈良県橿原市の重要文化財の今西家住宅と外観がそっくりであり、奈良と遠く離れた広島県の山奥に同じような建物がある

ことは不思議で、東城にも素晴らしい名匠がいた証である」と話されたほどの大工だったのだ。

しかし当人について詳しく話す人もなく、資料も少ないと見られていたが、東城町栗田のS氏が大量に保管されていることが平成二十二年に分かった。S氏は赤木三郎先生の生家、赤木商店に長年勤めておられたということが幸いして、先生をチー



南岳悦山の掛軸（上）と三楽荘

フとする調査が順調に始められた。資料群の目録作りは私にとっては未知の世界を垣間見る楽しい日々となった。

大きく分けると棟札などの建築儀礼に関するもの、大工免許状などの大工の日々に関するもの、日記などの横山家の日々に関するものの三つになる。

一番目を引いたのは禅宗黄檗（おぼく）宗の僧、南岳悦山の掛軸でした。写真で示すように「為棟為梁任主裁」から棟梁は棟となり梁となり主となってとり裁くと読むのだろうか。棟梁たるもの、かくありたいと座右の銘としていたのだと思う。林太郎の平生の姿と人柄が浮かぶような気がする。弟子たちへの等給表には異論あるものは言ってくれとも記してあり、出面表も残されているがこれは英語の day men をそのまま漢字にしたものとか。

また単なる大工ではなくすごい勉強家でもあったようだ。それは今では古典建築書は稀覯本になっているようだが、三十冊もあった。神戸市の竹中大工道具館から取り寄せた資料の中に出ていない本もあった。田舎の大工棟梁家に保管されていることは意味のある事である。

これらの資料を大切に保存した林太郎の跡を継いで棟梁となった四男、長一の実力も忘れてはならない。三楽荘の離れは若くして棟梁となった長一の仕事だが、父親の本館の重厚な仕上と違って明るい垢ぬけた感じなのである。広島で高等教育を受けた彼は当時としては先端の設計図面を書き、多くの建物を立てている。

資料収集癖があったのか大工関係とは無縁のものもあったが、当時の社会を知る面白いものもあった。昭和館という東城初めての映画館のポスターが沢山あった。映画ファンだったかと思いきや、裏の白紙部分には設計図が書いてあった。また東城駅開通式式典に出された「祝三神線東城駅開通」とした封筒が中身もそのままに残されていた。しかし当日は主催者たるべき町長の姿はなかった。駅へのアクセス道路をめぐっての騒動があり、それに関連したのか贈収賄容疑で収監されていたことが当時の新聞には出ていた。賑やかな時代を生きていた棟梁一家であった。

今は何でもかんでも片付けるのが美徳の風潮ではあるが、歴史を語るものも多くあると改めて感じた日々であった。

ハロー注意報③1

——進駐軍がいた町のはなし

ゲイボーイの恋 松岡初枝

美容専門学校に通いはじめた頃の私は、しばらくフテ腐れたままだった。「今ごろは大学生だったかもしれないのに」。自分の意志で入った学校ではないから、積極的に友達を作ろうとは思わなかったし、淡々と授業を受ける日々だった。

一、二カ月が過ぎた頃、何とか数人と話すようになり、少しずつ学校も楽しくなった。「ネエ、シミズさん、お友達になろうよ!」「えーと、Kくんだっけ?」「Kちゃんがいいナ、Kちゃんと呼んで」「じゃあ私もほっちちゃんがいいワ」。Kちゃんは男の子

だったが、仕草といい喋り方といい、女の子のようだった。小さい顔は整っていて薄化粧していた。スラッとした体形のKちゃんは女子達から人気があつたが、いつもシラッとしていた。「Kちゃん人気者なのにどうして私と友達になりたいの?」「はっちゃんのキャピキャピじゃない所がいの。お姉さんみたいだから:」「あらそうなんだ」。Kちゃんは高校二年で中退して入学したと言った。なるほど、私のほうが一歳上なので、まあお姉さんではあった。「どう

天王様の宵宮にて。左から祖父、母、私、弟



して高校卒業しなかったの?」「ボク女の子みたいでしょ、ずっと苛められてたんだ:、親が心配してさ。美容師になりたいって言ったら中退してもいいって言ってくれたの:」「そうか、Kちゃんには美容師向いてるかもネ」。Kちゃんの父は公務員、母は幼稚園の先生、よく中退に同意してくれたものだった。自分で希望して入った学校だったから、Kちゃんの技術の点はいつも上位で先生にも注目されていた。「はっちゃん、お弁当一緒に食べようよ」「靖国神社の中のベンチに行こうか」。時々お弁当交換もした。

夏休みが近づく頃、Kちゃんが深刻な表情で「ボク、S君のことが好きなの:はっちゃん、何とかしてお願い:」「S君か:ハードル高いよ、少し待っててネ、ちよつと訊いてみてあげる」。S君は大学二年で中退して入学した人で、アイドルのように整った顔、頭もいいしカッコいいお兄さんだった。「S君、Kちゃん知ってるでしょ。KちゃんはS君のこと好きなんだって。彼はゲイだし:自分の言葉で本人に言っただけよ」「ああ、知ってるよ。そうだね、友達ならいいよって言っただけよ」。次の日の昼休みに二人を会わせたが、結論は

出ていたので、Kちゃんは失恋した。何日もメソメソしているKちゃん「ボクなんか生まれないほうが良かった:」。次の日の放課後、靖国神社の「遊就館」へKちゃんを連れて行った。学徒出陣して行った学生達の遺書の前でKちゃんは「この人達の中にもボクみたいな人居たかなあ:」「たぶん居たと思うよ」「どんな思いだったのかな:」と涙目で言った。「時代の不幸だね。私の父も南方戦線へ行ったのよ」「ボクのとうさんも短い間だけ兵隊だったってさ」「Kちゃん、強く生きなきゃ。どんな人も大事な命、Kちゃんを必要とする人が沢山いるんだよ」

次の日からKちゃんは人が変わったように勉強に励むようになった。遊就館に残った遺書を書いた学徒達の中には、Kちゃんのようにゲイらしい人もいたと思う。だが戦時中はナヨナヨした人は認めて貰えなかったと思う。今は世の中も少しずつ理解する人が増えていることをKちゃんに知ってほしかった。そう言えば、前にピアホルのママさんが「アメリカ兵の中にゲイの人がいたのよ:。皆からからかわれていて泣いていた:」と言っていた。いつの世も、どの国にも悩み多い人がいると言った



店のスタッフ一同。後列右から二人目が私

ママの言葉をKちゃんに伝えた。
卒業が近づく頃、私は北海道行きを決めていたし、Kちゃんも都内の有名店への就職が決まっていた。「はっちゃん、どうして北海道へ行っちゃうの?」「お互いどこへ行っても自分らしく頑張ろうネ!」「又会えるといいネ:」「会えるよ。たぶんね」。しかし、その後Kちゃんと会うことはなかった。ずっと心配していたが、きつとしつかり生き、多くの人に必要とされる人になったと思う。



イギリス人講師を招いての勉強会

昭和四十年代は、所謂ゲイボーイが世に認められつつあった頃で、丸山(美輪)明宏さんや、ゲイバー「青江」のママなどがテレビ出演するようになっていた。特に美容やファッションの分野では、その独特な感性が注目され、世の中も特別視するよりも才能あるゲイの人達の活躍する場が増えていった。美容業界では、メーカーやディラーが募集する技術の勉強会が数多く開催され、中でもTさんという講師が人気で、早く申

し込まないとすぐに満席になった。「皆さーん、今日はアップスタイルの勉強よ。私はサ、手が大きいから、束ね髪は得意なの」。Tさんは技術もさることながら、その話術の巧みさは群を抜いていた。勉強会は熱気と笑い声が満ちて、いつも充実した時間だった。T講師もゲイだったが、いつも自然体で接してくれる人だった。「先生はいつカミングアウトされたんですか?」変な質問にもきちんと答えてくれた。「うーん:十年位前からかしら。他人目(ひとめ)を気にせずに自分らしくやろうと決めたのよ。それには倍ぐらい勉強したワ。技術を身に付けちゃえばこっちのものよ!」「先生は生き生きしてる!」本当にそう思った。誇りを持って指導するT講師を見て、Kちゃんを思い出した。KちゃんもT講師のように自信を持って生きてほしいと思った。

今、世界中でジェンダーフリーが言い募られている。男、女も人種もそれぞれの差別や偏見を止めよう!と法律などで決めたところで、人々の心に寄り

添ってゆけるものではないと思うのだ。TさんやKちゃん達のように自分の本質を否定しないで生きていけば、周囲が自然に認めてゆくと思う。大声で叫んでもそこから何も生まれないのではないか:。

若い頃、女ばかり三人で新宿二丁目のゲイバーに行ったことがある。「いらっしやーい。あらー、天然物が三人だワ、まあお茶つびきだったし、入って入って!」「ママ、天然物って私達のこと?」「そうよ、あんた達が天然物、ワタシ達は養殖物よ。どんなブスでも天然物には敵わないワ」「あつはっは、ひどーい。天然物だって!」「今夜は婦人会だワサー!」。ママも店のおネエさん達も話術の達人だった。何しろ客を楽しませる為のサービス精神には、多くの事を学ばせて貰った。本音の人間の心をサラッと語る仕事ぶりを見た。この時の体験は、その後の自分の仕事に大いに役立ったと思うのだ。「天然ちゃん達、自分を磨きなさいよ。どんな場面でも人間力が大切なんだからサ」。お世辞にも美人?とは言えないママの、珠玉の言葉だった。

「じいさん、ここにベトナム人の若い女がいるだろ？」

若い方の男が言った。短軀だが、洋服の上からでもゴリゴリした筋肉の盛り上がりがわかる。

「はあ？」

耳に手を当てて、聞こえない振りをした。

「ベトナム人、わかい、オンナー」

大声で怒鳴った。俺は大きく頷いて、ニツコリ笑った。

「いらん。わしは競馬新聞しか読まんから」

勢いよくドアを閉めると、頑丈な鉄製の門を差し込んだ。

「じい、何してるんだ！ここを開けろ！」

怒鳴り声と、木製のドアをどンドンたたく音が響いた。

ホアホアを促して、裏口に向かった。軒下にトラクターを停めてあるので、トラクターを利用する時に使っている。引戸を開けて啞然とした。もう一人のダークスーツの男が立っている。四十半ばぐらいだろう。長身痩躯で冷笑が顔に貼りついている。

「彼女と話をさせてもらえませんか？ 手荒な真似はしませんから」

低いがよく通る声だった。ホアホン

アが強張った顔をして後ずさる。ドシーンという何かが倒れる音が部屋の中に響いた。ドアが破られたのだ。

「じい、とぼけやがって……」

前門の虎……、いや蛇か。後門はゴリラだ。作業台の上にあるマイナ

スドライバーを握りしめた。

「シューさん、お客さんかい？」

チャドさんの声が聞こえた。

（まずいな。チャドさんを巻き込んで

んの体が吹っ飛んだ。

「イテェー！」

悲鳴を上げたのはゴリラの方だった。痛みを振り払うように、右の手のひらを振っている。チャドさんが立ち上がった。ダメージがないよう

なのでホッとした。まるで黒い仮面を被っているようだ。

「チャドさん……」

森島アキラさんが後ろから声をか

徐福伝説3

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑪4

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

（やめろ！）

「礼儀知らずなお客さんだ。日本の家は靴を脱いで上がれと教わったがな」

「国を逃げ出して来た不法移民ヤローが、でかい顔をすんじゃねえぞ！」

ゴリラが突進した。

（やめろ！）

声にならない。大ぶりのパンチがチャドさんの顔面に当たった。ガツンという鈍い音が響いて、チャドさ

マコさんが、ネバネバした黄土色の粘液をゴリラ男の右手にへうで塗りながら言った。山椒の強烈な臭いが漂ってくる。

「石頭で良かったな」

ゴリラ男……、黒田武が言った。コンサルタント&リサーチと名刺には印字されている。

「まだ気づいてないのか？ おまえがこの人の頭を殴ったんじゃない。おまえの拳にこの人が頭突きを合わせたんだ」

痩身の男、横田修一が言った。そういえば、黒田がパンチを繰り出した瞬間、チャドさんの体が沈んだように見えた。

「あんた、何もんです？」

横田がチャドさんを睨んで尋ねた。

「元フランス傭兵部隊の鬼軍曹！」

答えたのはアキラさんだった。「森の古本屋」の喫茶スペースに来ていた。

「あれぐらいですんで良かったよ。もし何かの間違いでチャドさんを傷つけていたら……」

アキラさんが親指を立てて、自分の首を切る動作をした。

「チャドさんに命を救われた者や世話になった人は世界中にいるから



ね。部下の中には、殺し屋に転職したやつもいる……」

驚いてチャドさんの顔を見ると、目が笑っている。

(三味線が得意だからな)

ギャンブルのブラフを意味する隠語である。

「それで、ホアホアの借金はいくらあるんですか？」

横田の話では、パスポート、介護士実務研修目的での日本滞在のビザ取得、渡航費用、日本での生活費等々、エージェント(斡旋業者)にかなりの借金をしている……、ことになっているらしい。その返

済のために風俗店で働くことを強要されて、ホアホアは逃げ出して来たのだ。

ホアホアは今、マコさんの家で仔猫のゆきと一緒にいるはずだ。

「二百万だな。端数は負けといてやるよ」

横田が言った。

「じゃあ、必要経費は百万以下でしようね」

横田の顔が険しくなった。

「だから？」

「ホアホアは、元居た場所に帰るつもりはない」

アキラさんがスマホを取り出して、番号をタッチした。耳に押し当てて、通話を開始した。

「知り合いの外国の人が、パスポートやビザを失くしてしまったようなんですが、そちらの警察署に相談すればいいのでしょうか？ はい、はい、わかりました。出入国在留管理庁に連絡すればいいですね。もう少し探してみても、見つからないようならそうします」

通話を切って、横田の顔を見た。

これも三味線なのか？ しかし、交渉が決裂すれば、それが最善策なのかも知れない。

「公になるのは困るんじゃないです

か？」

「百五十万……」

「あなた方は、シューさんの家のドアを壊している」

アキラさんがスマホの画面を操作した。

「いま、送金できる口座の残高が九十二万四千五十六円あります。それで手を打ちませんか？」

そう言つて、スマホの画面を見せた。

(おいおい、俺の口座じゃないか……)

ネットで請負っている「修理屋シューさん」の収益は、アキラさんに管理してもらっている。

横田はしばらく考えて、チャドさんの顔をチラリと見た。暴力での脅しは通用しない。小さくかぶりを振ると、スーツの内ポケットからいくつかの書類を取り出して、テーブルの上に置いた。

マコさんが手を伸ばして、緑色のパスポートを取り上げた。開いて見て、小さく頷いた。

「彼女が二十歳だというのは本当なの？」

(嘘だ……、十六歳だろう?)

「もちろんだ。偽造する方がやばいだろう？」

(つづく)

ますの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50 円本などのコーナー。
- ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週日・月・火曜日（2月は在庫整理で休業）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30（昼食休憩 12:00～12:30）

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川 行洋

第六部 旬と花を見る

今年の六月一日から三十日は、旧暦では四月十六日から五月十六日です。

四月と五月の旬

ソラマメ（蚕豆・空豆）

マメ科の一年草で三月から四月にかけて薄い紫色の小さな花を咲かせます。旬の季節は五月から六月にかけて、空に向かって実がなるので「ソラマメ」とよばれました。

エジプトでは四千年前の遺跡から、中東では新石器時代の遺跡からも出土しているなど、人々の食を支えてきた豆です。

梅



橘をデザインした文化勲章

バラ科サクラ属の植物です。花が咲くのは二月から四月にかけて、実が熟するのは六月のこの時期です。実は、梅干し、梅酒、ジャムなど、さまざまな銘柄が作られることに利用されています。

梅は古来より親しまれ、花見といえ、現代では桜の花を見ることですが、奈良時代より前は梅の花を愛でることでした。平安時代の半ば頃か

ら、徐々に梅の人気を凌ぐようになり、江戸時代から「花見といえば桜」が定着しました。

「塩梅（あんばい）」ということばがあります。これはもともと梅の塩漬の加減や調整がうまくいったときに使われます。

鮎

あゆは川で産卵し、若鮎になると河口付近の塩分の少ない泥のない場所で過ごし遡上します。成長して黒っぽくなった鮎が産卵のために再び川を下ります。それを「落ち鮎」と呼びます。鮎は縄張り意識が強く、近くにほかの鮎が来ると、体当たりして縄張りを守ります。この習性を利用して釣りが友釣りです。

釣った鮎を串に刺して塩焼きにし、蓼酢や蓼味噌をつけて頂けるのが高級料亭でも定番です。また、若鮎の天ぷらのにがうまさは絶品、そして骨も、はらわたも、頭も食べられるのは若鮎ならではです。また、鮎の腸を塩辛にした「ウルカ」は珍味として人気です。

橘

ミカン科ミカン属の常緑樹で紀伊半島や四国、九州に自生している日本の固有種です。そして、永遠を表すものとして、古来からめでたいも

のとして松とともに人気がありました。

また、橘紋は日本十大家紋に挙げられています。橘を愛した元明天皇が、葛城王に橘姓を下賜したことか、橘が縁のある氏族で橘紋が用いられたそうです。そして、文化勲章には橘がデザインされています。当初は桜を意匠したものだったそうですが、桜が潔く散る武人の象徴となっていたのに対し、常緑樹の橘は永遠を表すので、永遠に残る文化の勲章としてふさわしいのではないかと、昭和天皇がおっしゃり変更されたということです。

ざくろ（石榴・柘榴）

初夏になると赤い花を咲かせ、鑑賞用、食用などとして栽培されています。

原産はイラン辺りの中東地域だとされ、「旧約聖書」にも載っています。日本にはシルクロードを通り、平安時代に伝わって来たといわれています。食用として、熟すと裂ける果実の中の種皮の部分はほどよい酸味があり、ジュースにしたり、そのまま食べたりします。



橘紋

ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(22)

マック☆ヤマザキ

3月10日アテネ、朝5時30分のモーニングコール。食堂で朝食をとっているとき突然停電になった。ある学生が“ジッポ”のオイルライターに点火。従業員がローソクを持ってきたりでロマンチックだと学生たちは喜ぶが、まだ食堂に来ていない学生たちが心配だ。エーゲ海クルーズ



用の港行きバスはもうホテルの下に来ていた。

昨日、ドライバーのサイキスに無理して頼み込んだ時に、「とにかく遅れては困る」と釘を刺されていたのだ。出発前のバスの中で点呼、「1班OKです!」「2班OKです!」「3班OKです!」。4班の返事がない。「仲田さんがいません!」、班長さんがバスを下りて迎えに行く。バスの中からホテルの部屋を見たら、いる! 停電がおさまったのでドライバーをかけているではないか。道路から「バスが出るよ!!」と叫んだら気が付いて、班長さんの付き添いであたふたとやって来た。

サイキスがアクセルをふかして出発、猛スピードで突っ走った。そして、外観が貨物船のような船に、人目を避けるように乗り込んだ。船底に近い、天井にミラーボールのある大部屋に、出航するまで約40分、閉じ込められた。あの時間は何だったのか? 定員オーバーで、時々行われる当局

の調査を逃れる必要があったのではないかと勘繰った。

出航するや、「皆さんよーこそエーゲ海クルーズに……」、何故か日本語で、関西なまりのおぼさんの声。一日中、このアナウンスが続いた。島でのオプショナルツアーの残席があと少しになった。日本語のパンフレットの残り部数があと何冊になったので急いで買いに来るように。船内での毛皮店で毛皮製品を買ったら、成田空港の税関審査用に20万円以下の領収書にしてお渡しします、等々。酒、香水、たばこの免税品以外のものは20万円までが免税扱いなのだが、これは脱税行為である。

最初の島エギナ島に上陸、港の水のきれいなことに感激、不愉快なアナウンスのことなど一瞬で消しとんだ。島の中には車がなく、ものを運ぶのはロバたちの役目。坂道が苦手な観光客を乗せて、おじさんが付き添ってくれる。勿論、有料。猫が多く、女子学生達が近づいて背中などを撫でて逃げない。

船を降りるときに渡されたクルーズカード(乗船券)は観光後、再び乗船するときに係員に渡す。数合わせをして全員が帰船したことを確認、無賃乗船者を防ぐためでもある。数

年前にはテロリストが爆弾を仕掛けに乗ってきて、乗船客を不慮の事故に巻き込む事例が発生した。最初の島を見終わって乗船すると、早めの昼食。食堂に我々を誘導するや、ウェイターが走るがごとの勢いで一枚の金属製のトレーに盛り合わせた昼食をドスンと置いて、食べ終わるのを待って、次の船客を誘導するのだった。憶れていたエーゲ海クルーズに陰りが……。

二番目の島ポロスに上陸、魚市場のそばの立食の店では、焼き魚の他に海老を揚げたりしていて、一皿400円くらい。日本を出てから初めての焼き魚は学生達には評判がよく、低価格で気軽に飲めるテールワインもあって、船のランチのお口直しにもってこいだった。

今日の三島めぐりの最後はイドラ島。三つの島の中で一番水が澄んでいて美しいと評判だ。18、19世紀に活躍した英雄たちの立派な邸宅、そして芸術家たちのアトリエ、別荘が落ち着いた雰囲気。人間の足以外の唯一の交通機関は「ロバ」で、馬に比べて足が短く、耳が大きく、何となくさみしそうな眼付き(写真)。ロバの背中に荷物を載せているおじさんの愛情が読み取れた。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

鬼やんま句座を一瞥して去りぬ

近藤 昌平

補聴器に夏夕闇の風の音

原 博己

老鶯の鳴き声を聞き夜の明ける

片岡 正人

オクラ植え見上げる空に飛行雲

隆愚

独り居の婆の菖蒲湯もたいなや

大槇 三代子

青梅や校歌を歌う小学生

寺内 龍二

梅雨晴れ間点滴の玉輝きぬ

赤川 冬人

台風の中突くように若者は

松岡 初枝

来店したりボクだけでしよと

投稿&寄稿

候のことば

「土潤溽暑」

隆愚

暦の二十四節気七十二候で七月二十八日から八月一日頃を大暑の次候で「土潤溽暑」（つちうるおうてむしあつし）の候といひます。土がじつ

とりとして蒸し暑くなる時期です。ほかに、暑さの盛りは「極暑」（ごくしょ）、燃える様な暑さは「炎暑」（えんしょ）、苛酷な暑さは「酷暑」（こくしょ）といひます。
二〇〇七年以降は、最高気温が二十五度以上は「夏日」、三十度以上は「真夏日」、三十五度以上は「猛暑日」という気象用語ができました。

日本の夏は、どこまでエスカレートするのでしょ。

椰子の葉のざんばら髪の溽暑（じょくしょ）かな 鷹羽狩行

「全身麻酔」

赤川 仁洋

三次中央病院で、腰椎すべり症の内視鏡手術を受けた。古本屋の職業病で、重い本の入った段ボール箱を運んでいて腰の骨がずれてしまった。腰椎がぐらぐらなので金属プレートで固定した方がいいようなのだが、それだと二週間の入院が必要で、本誌の発行が厳しくなる（苦笑）。先延ばしにしても手遅れになることはないと言われたので、一週間の入院ですむ内視鏡を選択した。神経を圧迫している骨や靱帯の一部を、内視鏡で削り取る。

入院の手続きで一悶着あった。保証人が二人いるという。身内は兄が一人いるだけで、頼りにしていた叔父さんは他界している。友人に負担をかけたくないので、保証人一人で押し切らせてもらった。連絡先はどうしても二人必要と言われて、これは友人の厚意に甘えた。

これから先、身寄りがなければ、入院も困難になるということか。天

涯孤独は身から出た錆び、肅々と受け入れるが、天寿が全うできないのであれば悔いが残る。入院に限らず単身高齢者の保証人問題は、今後ますます深刻になり、逆に代行業等々ビジネスチャンスでもあるのだろう。公的なサポートができないものか。

手術で楽しみにしていたことがある。麻酔に墜ちる瞬間と目覚めの瞬間。麻酔薬は点滴で注入される。しかし、睡眠時とさして変わらない感じ。心配だったのが尿管の差し込み、これは麻酔後の意識のないときの処置で助かった。ちなみに、そのカテーテルを看護師さんに引き抜いてもらうときが、入院時の一番の痛みだった。（次号につづく？）



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

ー 硬式テニス参加者募集 ー

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・ 火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (9:30 ~ 12:00)



《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



モーリー BROS.BAND

(ティーブレイクコンサート vol.34)

コルネット奏者モーリーと、ギター柳川浩、ベース多田博文、ドラムス中野まちこの
JAZZ カルテットで、JAZZ・POPS・歌謡曲などを演奏、一緒に楽しみましょう!

日時：7月11日(土)

13時開場 14時開演

場所：三次市民ホールきりりサロンホール
(0824-62-2222)

料金：1500円 全席自由スウィーツ付

♡音楽はココロのビタミン剤です!♡

スウィーツ&スウィーツ♪コルネットのしらべ♪



編集後記

◇7月号をお届けしま
す。令和8年も半分が
過ぎました。早いとい
う感覚はないのです
が、相変わらず月末は
せわしない時間を過
しています。今月は特
に入院期間があったの
で、なおさらです。

◇ただ今、サッカーのワ
ールドカップの真っ最中。決勝ラ
ウンドの一回戦、日本対ブラ
ジル戦が6月30日の未明に
キックオフ。ひよっとしたら
と思わせてくれるだけでも嬉
しいですね。

◇術後の検査で7月15日(水)
受診のため、どら書房は臨時
休業します。昼までに戻れ
ば午後から開店、よろしくお
願いします。
◇「芸備線」「木次線」の連載、
それぞれ書籍化を計画中!

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第297回

くunchiichi しょうばら九日市

毎月九日に開催されている街角市場です。発祥は天正年間（1573～1591）、織田信長が安土城を築いたり、豊臣秀吉が大阪城を築いたころ、物々交換の市（いち）として始まりました。その歴史ある市が2001年に復活、地元の出店はもちろん、近隣他県からの出店＆名産品で賑わっています。



7月9日(木)
9:00～13:00

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
7月8日（水）～10日（金）10時～15時
「一本の糸から始まる物語展」

★どら書房、無料休憩室（漫画読み放題）
※本格コーヒー百円

★HONMACHI STAND→コーヒー 100円引き

★キッチン北川・店頭販売（9:30開始）
※大好評の美味しいお惣菜がたくさん！

★あなたも自分のお店を出してみませんか？（出店者募集中！）

* 出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～
九日市愛好会事務局 FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10（楽笑座内）

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

